

見えない仕事、未来を支える

日特建設株式会社 名古屋支店 事業部工事部工事課 ● おおいし 大石 かおり



はじめに

私は日特建設に入社して6年目になります。今回、このような機会をいただいたので少しでも特殊土木の世界を伝えられたら良いと思います。

私は物心がついたころから生き物が好きで、大学では生態系や分類学を専攻していました。学生時代は棚田の保全ボランティアに参加をしたり、研究室の活動では望遠鏡を担いで山に登り、バードウォッチングをしたりと自然に触れる活動をしていました。大学入学当初は、博物館の学芸員や高校の生物教諭になりたいと考えていましたが、環境アセスメントや防災のような人間と自然との共生をテーマにする講義を受けてからみんなが「安全に」暮らせる社会をつくる仕事をしたいと考えるようになりました。

そんな中、OBが防災工事や災害復旧を得意とする日特建設に入社していることを知り、インターンシップなどで社員の方々から話を聞いていくうちに、私もこの人たちと一緒に働きたい、人々の暮らしを支える仕事をしたいと思い入社を決めました。

いちばんたいせつなことは、目に見えない

日特建設が行う工種は多岐にわたりますが、大きな工事の仮設や災害対策、災害復旧を行うことが多いため、元請けとして大きな工事を複数人で担当するというよりは、一次下請けとして小さな工事を一人で担当することが多いです。私も例にもれず、入社3年目ごろから一人で現場管理を行うようになりました。工期1～2ヵ月の現場を転々としているため移動は多いですが、様々な場所に住み、たくさんの人と知り合うことができることが仕事の楽しみの一つでもあります。工程を組み、資機材の搬入の計画を立てたり、作業員さんと一緒に法面にぶら下がって写真を撮ったり、測量データをもとに図面を作成したり、一人で全てを管理することに焦ることもありましたが、上司や先輩社員などの周りのサポートもあり段々と一人でできることが増えてきました。名古屋支店は女性技術者が多く在籍していたということもあり、どの上



ダム現場にて（入社3年目）

司も女性社員だからと担当する現場を制限することなく様々な仕事に挑戦をさせてくれたのが嬉しかったです。

まだまだ技術者として未熟な私ですが『星の王子様』に登場する「いちばんたいせつなことは、目に見えない」という言葉が好きで、これは私が担当する工事にも通じることだと思ひ、心がけています。私が担当する工事は電波も届かないような山の中が多く、トンネルや橋といったランドマークにならない目には見えないものをつくることが多いです。しかしそれらは地震などの災害が発生したときにはじめて「何も災害が発生しなかった」という効果を発揮します。つくったものが人々に注目されることはありませんが、私たちがつくったものは確かに必要なものであり、災害が多い日本で百年先でも目には見えないけど確かに残る仕事にとってもやりがいを感じています。

これからについて

私はまだ結婚や出産といったライフイベントの予定がありませんが、これからもこの仕事を続けたいと考えています。ありがたいことに、社内外の女性社員と交流する機会をいただいたり、名古屋支店の社員で駅伝大会に参加したりとたくさんの方と気軽に話すことができる環境にいます。今後、生活スタイルの変化など将来への不安もありますが、施工管理から技術部や営業部に異動した女性社員の話聞きながら今後の自分のワークライフバランスを考えていこうと考えています。

私が入社してから、偶然ではありますが3年連続で女性社員が名古屋支店に配属されました。そのうち2名が学生時代からの知り合いであったこともあり、お互いに仕事の相談をしたり、休みの日に若手



名古屋支店の社員で駅伝大会に参加しました（矢印）

社員を誘って共通の趣味である劇団四季の観劇をしたりと公私ともに良い付き合いができています。働く環境は性別関係なしにまだまだ改善点が多い業界ではありますが、たくさんの方に支えられながら現在までやってこられました。ライフワークバランスや働き方の多様性という言葉をよく耳にするようになった昨今、社会全体が目まぐるしく変化している中で建設業も柔軟に対応する必要があると思います。今後は私も勉強中の立場ではありますが、変化に対応し後輩たちを支える側の一員になれるように精進していきたくと思います。

大石さんからのバトンをしっかり受け取りました。

次号では、土地改良に携わる技術者としてのこれまでの経験や、女性技術者としての働き方などについて、私生活における日々の雑感などを交えながらお話ししたいと思います。

中国四国農政局
農村振興部設計課
事業調整室

まなべ 直子
真鍋 直子

